

# ひろば

福岡教育大学学術情報センター図書館報 第150号

Side A : 図書館研究プロジェクトについて  
後援会寄贈図書紹介  
Side B : 教職員寄贈図書紹介

## 学術情報センター研究プロジェクトについて

平成26年度に開始した、学術情報センター研究プロジェクトである『図書館における学習支援・研究支援プロジェクト』が終了しました。27年度は、毎月テーマを変えて企画展示を行ったほか、理科教育と保健体育の2分野で教育実習に活用できる図書の選定とパスファインダーを作成しました。作成した20種のパスファインダーは、授業で配布したほか、開架室のパンフレットラックに並べ、図書館利用者へ配布しました。学生たちは教育実習等で有効に活用しています。



### パスファインダー (Pathfinder) とは？

直訳すると『道しるべ』。図書館のパスファインダーは、特定のトピックや主題に関する資料・情報を収集するために図書館が提供できる関連情報資源のリストのこと。



## 後援会寄贈図書紹介

今年も後援会から図書438冊とDVD40本をご寄贈いただき、**後援会寄贈図書コーナー**（図書館2階）と**AVルーム**（図書館1階）に配架しました。これらの中には、学生からのリクエスト図書や、学術情報センター長との懇談会に参加した学生たちの選書図書もあります。

1Fカウンター前にポップ付きで展示している新着本コーナーは、随時入れ替えていますので、来館時には要チェック！



### 学生選書

今鷹真ほか	「正史三国志」 1～8
オヤマダアツシ	「ロシア音楽はじめてブック」
屋比久勲	「普通の子どもたちをできる子にする怒らない教え方」
鳥羽耕史	「安部公房 メディアの越境者」 など



### 文学賞受賞作品図書

芥川賞	又吉直樹 「火花」	羽田圭介 「スクラップ・アンド・ビルド」
	滝口悠生 「死んでいない者」	本谷有希子 「異類敬愛譚」
直木賞	東山彰良 「流」	青山文平 「つまをめぐらば」
本屋大賞	宮下奈都 「羊と鋼の森」	など



### 視聴覚資料 (DVD)

「プロフェッショナル：仕事の流儀」
「インサイド・ヘッド」「マイ・インターン」
「ピリギヤル」「海街diary」
「アベンジャーズ：エイジ・オブ・ウルトロン」 など



### 2015年度購入 後援会図書 貸出ランキング ベスト10!

1位	七月隆文 「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」	6位	東野圭吾「ラプラスの魔女」下重暁子「家族という病」
2位	地曳いく子 「服を買うなら、捨てなさい」		奥園壽子「だから毎日作りたくなるレシピ」
3位	又吉直樹 「火花」	9位	「クックパッドのおいしい厳選お弁当レシピ」
3位	おかんメール制作委員会 「おかんメール」		「あっ!命の授業」「啼かない鳥は空に溺れる」
5位	朝井リョウ 「武道館」		「学び続ける理由：99の金言と考える ベンガク論。」
			「教える技術：行動科学を使ってできる人が育つ!」

福岡教育大学後援会からのご寄附に、図書館職員一同、心より感謝しております。

## 教職員寄贈図書を紹介

今年 4 月までに図書館にご寄贈いただきました先生方の著書をご紹介します。

図書館開架室 福教大コーナーに配架していますので、どうぞご利用ください！



### 菊池良和編著 『小児吃音臨床のエッセンス—初回面接のテクニック』



学苑社  
2015年6月発行

吃音は、100 人に 1 人は存在する発話の流暢性の障害です。通常の学級を担当する教師にも基礎的知識や対応が求められます。最近放送終了したドラマ『ラヴソング』では吃音のある女性の成長について描かれました。

本書は、『ラヴソング』の監修者の一人でもあった菊池良和医師（九州大学病院耳鼻咽喉科）が編集しています。吃音の指導及び支援に際し重要とされる「初回面接」の進め方や技術について、17 名の専門家（通級による指導担当教師、言語聴覚士、医師）による幼児～思春期（中学生）にかけての 18 の事例が紹介されています。

今回、「登園をしるぶる様子がみられた男の子（幼稚園年長）」の項を執筆しました。幼児でも自身の吃音を意識し、登園をしるぶるなどの二次的症狀に進展している子がいます。早期からの適切な助言や支援が求められます。本書を通して、吃音とその支援に関する理解が深まれば幸いです。（文：特別支援教育講座 見上昌睦先生）

＜開架室 福教大コーナー 496.9||K124||福教大＞



### 有元伸子・久保田裕子編著 『21 世紀の三島由紀夫』



翰林書房  
2015年11月発行

三島由紀夫という〈総合的文化現象〉が、どのように同時代の言説や文化・社会状況と接合していったかという視点から、没後 45 年間にわたる三島由紀夫の多面的な活動について考察した。政治・経済・文化・メディアをめぐる状況は三島の生前とは大きく変わったが、今、三島文学を読むことはどのような可能性を拓いていくのか。文学・文化をめぐる研究史を包括した〈読書の現在〉と結び付ける視点から本書を企画した。

【エッセイ】では、坂東玉三郎氏（歌舞伎俳優）、生田大和氏（宝塚歌劇団演出家）、宮沢章夫氏（劇作家・演出家）の他、国内外の三島文学に関わる方々に寄稿して頂き、宮本亜門氏（演出家）の【インタビュー】を掲載した。【Ⅰ 三島由紀夫 作品の世界】、【Ⅱ 三島由紀夫 作品へのアプローチ】、【Ⅲ 三島由紀夫 作品を読むための事典】では、日本近代文学研究者三十六名に執筆を依頼し、今後の三島研究の基本的文献となることを企図した。（文：国語教育講座 久保田裕子先生）

＜開架室 福教大コーナー 910.26||MI53||福教大＞



### 山元悦子著 『発達モデルに依拠した言語コミュニケーション能力育成のための実践開発と評価』



溪水社  
2016年2月発行

この本で扱っている言語コミュニケーション能力とは、人と人が言葉や仕草を介して考えをやり取りし、新しいアイデアなどを共創していく能力を指しています。

国語教育では話すこと聞くことの指導を行います。この指導を進めるための理論的支柱を構築し、それに基づいた実践の実際を開発したのがこの本の特長です。

他者とともに力を合わせて社会を作り、生きていく力をもった人に育てていくためには、言語コミュニケーション能力は不可欠ですが、どうそれを育てていけばよいかはとても見えにくいものです。

本書は、この課題に取り組み、子供達が楽しく意欲的に取り組む学習の要件を踏まえた授業開発を行い、それを支える教師の指導性を明らかにしています。

話すこと聞くことの指導について自信のない方、見通しを持ちたい方はどうぞ手にとってください。（文：国語教育講座 山元悦子先生）

＜開架室 福教大コーナー 375||Y31||福教大＞